

# 令和5年度 上田市立本原小学校 自己評価シート(職員)

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)
なかよく たくましく かんがえて  【令和5年度の基本理念】 「安心・安全 わくわく どきどき、学ぶ喜び を感じ、明日を楽し みに来る学校」	○一人一人の子どもの理解を深め、つながりを大切に作る学校 ○子どもが学ぶ喜びを感じ、安心・安全で、あたたかな学校 ○子ども一人一人の学びを保障し、考える力・伝える力の伸長を目指す学校
	今年度の重点目標
	1 なかよく
	2 たくましく
3 かんがえて	

領域	評価項目	評価の観点
教育活動	なかよく 子どもを大切に した学級づく り・学校づく り	○子ども同士、子どもと教師が、あいさつや感謝の気持ちを伝えるとともに、人権感覚を磨いているか。
		○子どもが自ら意欲的に取り組み、自己肯定感を高めているか。
		○いじめや不登校について、しっかりと向き合い、よりよい方向へ導き、楽しい学校づくりができたか。
	たくましく 健康・安心・安全の 意識の育成 と体力の向 上	○健康や体力向上への意識を高める工夫ができたか。
		○安心・安全な校内環境づくりの工夫ができたか。
		○清掃や係・児童会活動など、児童自ら積極的に取り組めるよう働きかけたり、支援したりできたか。
かんがえて すべての 子どもの学 びが充実す る授業づく り	○「なぜ、どうして、やってみよう」をもとに探究していく授業、主体的に考えを深めていく授業を工夫できたか。	
	○伝え合い、聴き合い、みんなで学び合える授業、ひとりひとりがわかる授業を工夫しているか。	
	○すべての子どもの力を更に伸ばすような授業実践をしているか。	
学校運営	○様々な教育活動・体験活動を通し、豊かな心の育成	○原つ子応援団と連携し、地域に根ざした活動の場を設け、体験活動が充実しているか。
		○児童会、縦割り班、校外での交流活動を通して、「ひと・こと・もの」との関わりやつながりを大事にできたか。
	○子ども・保護者・地域との信頼関係を深める	○学校だより、学級・学年だより、安心・安全メール、ホームページにより、教育活動の情報を伝えているか。
		○地域連携を行ったり、直接または連絡帳、電話などで保護者と連絡をとったりして、信頼関係を深めているか。
○学校内外の相談体制の周知、受け入れ体制の整備を進めているか。		

総合評価					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
総合的に、多くの肯定的な評価をいただいた。課題は、児童の自己肯定感に関することである。自ら意欲的に取り組み、自己肯定感を高められるような授業づくり、授業改善が必要である。また、係活動や児童会等の活動を通して、自分が好き、自分に自信をもつ、自分から進んで取り組む等の姿が多くなるような支援も必要である。					
個性を認め合う学級づくりができた。人権同和教育の推進を行うことができた。(研究授業の実施)課題は、明るい挨拶・返事の定着である。		○			児童自らが元氣な挨拶・返事ができるよう、児童会のあいさつ活動、学習活動における返事の指導を充実させていく。
係活動、児童会活動など周りのために役に立つ活動の継続をすることができた。課題は、外遊びの奨励と環境づくりである。	○				外で遊んだり、元気に運動したりすることができるよう、2時間目休み、昼休みの有効利用を児童会も含め考えていく。
学ぶ楽しさ、学習意欲を喚起する授業づくりが行えた。3観点を意識した授業改善に取り組んだ。課題は、児童の自己肯定感である。		○			自己肯定感が高まるよう、やはり、授業改善に力を入れていく。特に3観点の「見とどけ」の充実を力を入れていく。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
やさしい気持ちで人と接することができた。感謝の気持ちを持つこともできた。課題は、元氣な挨拶を自分からすることである。		○			児童自らが元氣な挨拶ができるよう、児童会のあいさつ活動を充実させていく。職員も児童に対し、積極的に挨拶をしていく。
自ら意欲的授業参加することができた。授業で、さまざまなことについて、進んで考えることができた。課題は、自己肯定感である。			○		自己肯定感が高まるよう、係活動や児童会等の活動を通して、自分が好き、自分に自信をもつ、自分から進んで取り組む等の姿が多くなるような支援を行っていく。
いじめ、不登校に関する早期対応簡易マニュアルを作成し、運営することができた。実質、完全不登校0人となった。課題は、楽しい学校づくりである。		○			楽しい学校となるために、学校生活のどこか1か所でも、一人一人が輝ける場所、活躍できる場所、その子の居場所を考え、所属感とともに、自分は頼りにされているという必要感をもたせる。
2時間目休みや昼休みにあわせて、校庭や体育館で元気に遊ぶことができた。反面、教室等において、校庭や体育館であまり遊ばない児童がいることが課題である。	○				職員も校庭や体育館と一緒に遊ぶ。また、学習ボランティアの方の活用も考えたい。2時間目休み、昼休みの有効利用を児童会も含め考えていきたい。
児童アンケートにおいて、「安全に気をつけて生活をする事ができた」項目がAB評価あわせて96%であった。課題は、廊下を走ってしまったり、左側通行をしてしまったりすることである。	○				廊下を走らず右側歩行できるよう、廊下の真真中に椅子やコーンを設置する。児童がぶつかってしまいうそなガラス等には、紙を貼る等の対策を講じる。
児童アンケートにおいて、「児童会や縦割り班の活動を、みんなと協力してやる事ができた」項目がAB評価あわせて95%であった。課題は、時間いっぱい無言で取り組む清掃である。	○				自問清掃とはいかないまでも、ふざけることなく、普段使っている校舎に感謝の気持ちをもって、清掃に取り組むことができるよう、清掃に向かう意識改革を行っていく。
3観点「ねらい」、「めりはり」、「見とどけ」を意識した授業を心がけた。課題は、「問いのある授業」「学びのつながりがある授業」である。		○			自己肯定感が高まるよう、授業改善に力を入れる。引き続き、3観点「ねらい」、「めりはり」、「見とどけ」を意識した授業となるようにする。特に「見とどけ」の充実を力を入れていく。
児童アンケートにおいて、「授業で、友だちの考えを聞いたり相談したりして、もっと考えようとする事ができた」項目がAB評価あわせて90%にとどかず、89%であった。		○			授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に考え、充実させていくことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行っていく。
児童アンケートにおいて、「授業で、さまざまなことについて、進んで考える事ができた」項目がAB評価あわせて98%であった。課題は、考えを深め、宿題等の学習を含めた自己調整力である。	○				主体的に学習に取り組む態度の評価について、2側面での評価の蓄積をしていく。「(粘り強い)取組をおこなっている側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」
コミュニティスクールにおいて、従来の「地域一小学生」という、一方的なものではなく、「小学生一地域」も含む、双方向的なものとなるように、今年度、体制を整えることができた。	○				「小学生一地域」という小学生が講師(先生)となり、地域の方に教えたり、地域の方の要望に応えたり等、小学校に居ながらも、地域に貢献できる体制を充実させていく。
児童会活動、縦割り班による花の栽培活動を通して、「ひと・こと・もの」との関わりやつながりを大事にできた。課題は、福祉施設等の校外との交流である。	○				コロナ5類にともない、福祉施設との交流等を復活させていきたい。インフルエンザ等の感染症との関連もあるので、オンラインを活用した校外との交流等も考えていきたい。
毎月の学校だより、ほぼ毎週の学年だより等、積極的に発信することができた。安心・安全メールの活用も積極的にできた。ホームページの更新も積極的にできた。	○				引き続き、学校だより、学級・学年だより等、積極的に発信していく。安心・安全メールの活用、ホームページの更新も積極的に行っていく。
地域やご家庭との連携をとることができた。課題は、連絡帳という限られた伝達手段のため、詳しい連絡とならなかったり、誤解を招いてしまったりしたことである。		○			連絡は、できる限り電話などで直接お伝えできるようにし、地域の方や保護者の方との信頼関係を深めていくようにする。
学校内外の相談体制を紹介することができた。相談室、保健室、校長室等、学校内の相談体制を紹介し、相談を行うことができた。課題は、学校外の相談に関することである。		○			引き続き、相談室、保健室、校長室に貼り紙をし、学校内の相談体制を紹介し、ちょっとしたことも気軽に相談できる体制を整えていく。また、学校外の相談についても紹介していきたい。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった